



## 第29号

編集発行  
園田学園女子大学  
シニア専修コース  
「けやき便り」  
編集クラブ

## 生涯学習センターは進化します

園田学園女子大学 社会連携部  
部長 寺田 豊



みなさん、こんにちは。

本年度より社会連携部部長を務めております寺田豊と申します。よろしくお願いいたします。

平成6年4月の入職以来、学生支援（就職支援、学生生活支援）を29年続けてきました。学生支援部、最後の3年間はコロナ禍の対処に追われ、学園祭の中止、課外活動の制限など満足な学生支援ができない状況でしたが、ようやく今年度より、ほぼコロナ前と同じ状況で、学業、課外活動が行えることになりました。

シニア専修コースの皆様におかれましても、今年度より通常授業となり、意欲的に学業に取り組まれている姿や、クラブ・サークル活動へ活発に取り組まれている姿を拝見し、ようやく苦しかった時期を乗り越えたことを実感している次第です。

学外の行事でも今夏、本格復活した「みんなのサマーセミナー」ではシニア専修コースから多数参加いただき、わたくしの授業も受けていただきました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

令和5年度より「社会連携推進センター」は「社会連携部」と名称を変更して、新しい体制で事業に取り組んでおります。

生涯学習センターでは新しい取り組みを進めています。例えば、40年を超える実績を持つ公開講座につきましては、従来の人気講座に加え、来年度から新しい講座を増やす予定です。特に芸術・教養、スポーツ・健康分野の講座を増やしてまいります。

講座の運営方式についても新しい試みを行います。コロナ禍により、Zoom、eラーニングなどのオンライン方式が普及しました。この普及状況を利用することにより、一部講座で対面と組み合わせたハイブリッド方式の導入により、オンデマンド部分のコンテンツでは受講生の皆様の都合の良い時間帯や場所で取り組めるよう工夫してまいります。

リカレント教育につきましては、2021、2022年度に実施した国からの委託事業体制から変更を行い、キャリアアップや管理職、起業を目指している女性を対象に SONODA オリジナルのキャリアアップ講座をスタートさせる予定です。

令和6年度に向け、生涯学習センターは進化を進めてまいります。ご期待ください。

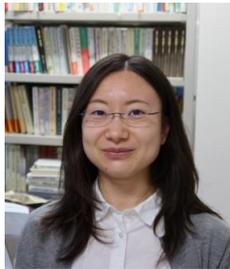
## 目次

生涯学習センターは進化します .....	園田学園女子大学社会連携部部长	寺田 豊	P1
目次 .....			P2
(後期)先生方からのメッセージ .....			P3
先生からの<特別寄稿> 自己探求と成長~お坊さんの旅 .....	Peel off座禅 入 門	浅田 慈照	P4
先生からの<特別寄稿> 博物館と地域住民の協働実践をみて .....	日本史学(3)	加藤 明恵	P5
第60回けやき祭 .....		編集クラブ	P6
国際文化学科 新入生歓迎会を開催 .....	国際2年	濱口 祐一	P7左
文学歴史学科 懇親会 開催 .....	文歴2年	長光 元久	P7右
日本史学習として 古墳と遺跡をたずねる .....	文歴1年	石谷 和彦	P8左
私の川柳・自選集 .....	国際2年	濱口 祐一	P8右
松本清張『砂の器』の舞台 亀嵩を訪ねる .....	国際1年	飯田 光治	P9・P10
『何者』 NANIMONO .....	文歴3年	田中 祐二	P11・P12
(私の練習作品) 水彩画 .....	国際2年	山根 邦男	P12右
ミニミニフィールドワーク 忘れ去られた塚口城 .....	研究生	阪田 正樹	P13
NPO法人「つどい場さくらちゃん」 .....	研究生	酒井 恵理子	P14
クアラルンプール便り - シニアの旅 投資とバドミントン .....	国際1年	久下 博史	P15・P16
85歳までの風景その1 - 大学卒業まで - .....	研究生	中村 米三郎	P17・P18
画家ゴッホの未発表作品? 画像AI体験記 .....	国際2年	篠岡 信吉	P19
頑張れ!! 町の本屋さん .....	研究生	藤原 多計治	P20
松山先生と行く 北海道-アイヌを訪ねて-の旅 .....	文歴3年	小笠原 昭博	P21・P22
漢詩を学ぶ(その三) .....	文歴3年	松原 光治	P23・P24
アフターコロナを楽しみます .....	国際1年	吉武 俊行	P25
(よもやま話の会報告) 出会い・つながり・学ぶ .....	文歴3年	河田 かつのぶ	P26
「アイヌ神謡集」に出会う-北海道アイヌ民族フィールドワークにて- .....	研究生	井上 聖明	P27
《ざっきちょうから》ひとり申し込みツアーの旅 .....	研究生	金森 扶美子	P28
【クラブ・同好会活動報告】			
(けやき遊歩クラブ) (けやきIT を楽しむ会) .....			P29
(けやきテニスクラブ) (けやき軽音楽クラブ) .....			P30
(けやき朗読倶楽部) (けやきゴルフ同好会) .....			P31
(けやきカラオケクラブ) (「けやき便り」編集クラブ) .....			P32
社会連携部 生涯学習センターからのお知らせ .....			P33
編集後記、皆さまからの投稿をお待ちしています! .....		編集クラブ	P34

**(後期) シニア専修コースでご指導を頂く先生方から メッセージ**

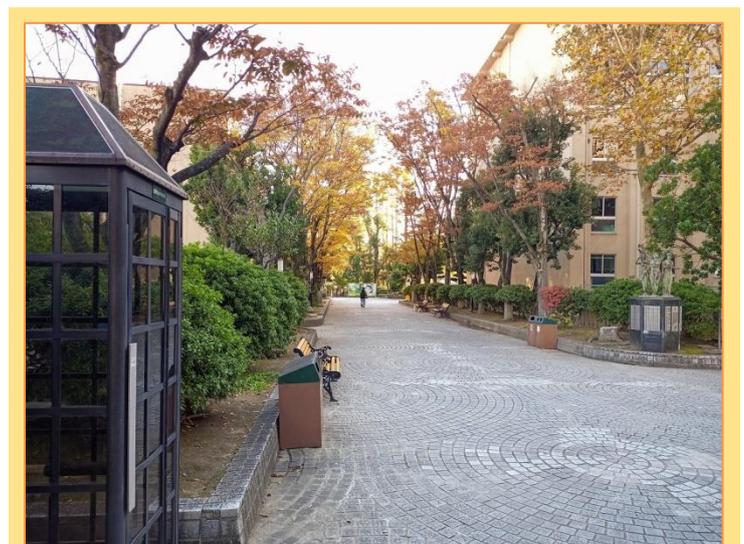
(敬称は省略、順序はあいうえお)

1 段目	名前	2 段目	写真	3 段目	役職名
4 段目	担当科目	5 段目	メッセージ		

<b>国際文化学科</b>	<b>文学歴史学科</b>	<b>共通選択科目</b>
吉本 康子	加藤 明恵	宮城 洋一郎
		
本学非常勤講師	神戸大学人文学研究科 特命助教	種智院大学特任教授 皇學館大学名誉教授
アジア太平洋文化論 (後期)	日本史学 (3) (後期)	仏教の歴史と思想
この授業では東南アジア、主にベトナムの事例を紹介しながら、文化人類学が扱ってきた民族・家族・親族、宗教などのテーマについて考えます。異文化への眼差しを通して、日本の社会や文化も見つめ直してみましよう。	日本近世史を専門にしています。今期は、江戸時代は京都の貴族近衛家の領地であった伊丹郷町に着目し、当時の経済や金融の動向について皆さんと考えてみたいと思います。よろしくお願ひ致します。	担当科目は仏教をテーマとするため、難解な点がありますが、史料や画像を駆使しながら、分かりやすく講義を進めています。これを機会に、寺院参詣の楽しみ方を学んでいただければと思います。

<b>共通選択科目</b>
村井 磨音

園田学園女子大学非常勤講師
日本近世文学Ⅱ
忠臣蔵と通称される『仮名手本忠臣蔵』という作品は突然生み出された作品ではなくそれまでのいくつもの作品における試行錯誤を踏まえた上で誕生した作品でした。そうした成立過程をお話するにあたり、どのように進めればよいものか自らも試行錯誤しながら進めさせていただいております。



2023年11月22日(快晴、小春日和)の  
けやきアベニュー

先生から  
の寄稿文

## 自己探求と成長 ～ お坊さんの旅

Peel off 座禅入門 浅田 慈照

一日が楽しくなる秘訣はあるのでしょうか？秘訣はないです。しょっぱなからスママセン。ただ、ご機嫌に暮らす智慧はあります。

私は園田学園女子大学国文科に在学中 19 歳でお坊さんになりました。在家出身です。家はお寺ではなく、一般家庭でしたから、「なぜお坊さんになったのか」とよく質問されました。答えは簡単です。自分以外の〈何か〉になりたかったからです。

お坊さんになると、名前が変わる。着る物も変わる。ヘアスタイルが変わる。そうしたら、人からの見られ方も変わるので、自分以外の人になれると考えたのです。

子どもの時、テレビで「西遊記」を見ました。主役の玄奘三蔵さま役は、夏目雅子さん。絶世の美女です。ああ、私も髪の毛を刈ったら、あんな美人さんになれるかも（妄想は自由です）。お坊さんになる儀式を高野山金剛峯寺で終え、鏡をソツとのぞき込んで自分を見る。私が映っている。当然です。4 時間ほどの儀式で夏目雅子さんになったら、美容整形の先生は困っちゃいます。

優しくて慈しみが深く、おだやかで人から好かれ、気持ちの切り替えが上手な人。そんな私の理想の私に、なりたかったのです。一大決心でお坊さんの世界に飛び込む。お坊さんになったら変わる。そう思ったのです。40 年が経ちました。鏡の中には、変わらぬ私があります。変われなかったのです。その理由は、師僧に出遇ったからです。

ある日、お師僧さんはこんな質問をなさいました。「慈照、車は何でできているかな？」答えは簡単！ ボディ・タイヤ・エンジン・ハンドル・ブレーキ、えっと、えっと。「車に〈車〉という部品はあるかな？」やだあ先生、そんなパーツはないでしょう。「おまえはいつも言う。

今の私は本当の私じゃない。こんな私じゃない。今は見つけられていないけれど・・・と」自分探しをしている私に、お師僧さまは車を解体して、〈車〉という部品を見つけれられるかな？そんな部品は存在するのかな？と投げかけてくださったのです。

車の存在意義は、物を乗せて走ることです。何を運ぶ？どこへ行く？何人で？病気の人を助けたいなら、救急車がいい。街歩きには、小回りの利く軽自動車が無敵便利。大勢で旅をするなら、バスが良さそう。風を感じるなら、スポーツタイプでしょうか。組み上がった車の性能を見れば、私の走りは決まります。私が何か？ではなく、私が何をやるか？が重要なのです。

感情の起伏が激しく、すぐ腹が立つ私。一言多くて人を凹ませる。よかれと思ってしたことが仇になる。謝れない意固地さ。私は問題部品を取り除こうと、一生懸命でした。生まれてきた訳は、きっと前世の積み残しを清算するため。ここで努力しなきゃ。

ある時お釈迦さまに、死ぬのが怖くて仕方ない人が聞きました。「死んだ後はどうなるのですか？」お釈迦さまは、「この世で悪い行いをした人は、水面に石を置くように、地獄・餓鬼道へストンと落ちる。この世で善いことをした人は、水中に油を入れた時のように、フワリと人天に生まれる」私は今、人間に生まれています。前の世で善いことをした証拠です。プラスマイナス0ではなく、かなり善いことをした結果が、この私です。

人の顔色を見るのが得意な部品がある。誰とでもおしゃべりができる口。人の評価をスルーする便利なオフ機能付きの耳。寒さに強い寒冷地仕様。それぞれ、私に備わったパーツです。私は良い部品の管理を怠っていました。良い部品も日々のメンテナンスが大事です。放置したら、錆びる錆びる。私の不得意は、すかさず外注に出す。時間は無限ではありません。生まれたら、必ず死にます。何になるか？ではなく、何をやるか？日々安楽に過ごすコツです。

先生から  
の寄稿文

## 博物館と地域住民の 協働実践をみて

—桃園市立大溪木藝生態博物館（台湾）訪問記—

日本史学 (3) (後期) 加藤 明恵

私生活では出不精な私ですが、公的な出張はしばしばございまして、先日は台湾の桃園市立大溪木藝生態博物館（以下、大溪木博と略記）を訪問しました。すぐそばを大漢溪という川が流れ、古くは水運の要衝地だった土地です。博物館の建物は日本統治時代に建てられた警察官舎等をリノベーションして利用し、2015年に開館しました。

大溪は木工芸、特に神棚（日本で言うところの仏壇）の生産が盛んな地域で、大溪木博はいわば地場産業である木工芸を中心としたエコミュージアムです。近年では身近で使える家具・インテリアの生産にも力を入れているとのことで、「大溪国際木家具コンペ」受賞作品が展示されていました。若手からベテランの職人による美しく機能的な家具を見ることができ、地場産業のポテンシャルの高さに驚きました。

大溪木博は、地元商店や木工関係等の工房、お寺などと協働して、その場で歴史・生活文化等の展示を行うというユニークで先進的な取り組みをしており、これらは「街角館」という博物館の民間パートナーとして位置づけられています。大溪市街には、日本統治時代に造られた細かな装飾が特徴的なファサードを持つ家屋が残されていますが、「街角館」はこのファサードの保存活動に参加していた住民からまず参加してもらったそうです。例えば、干豆腐屋（大溪は干豆腐の生産でも有名。美味であります）では、干豆腐の生産に関するパネルが展示してあったり、お寺では祭礼に関する展示がしてあったりします。大溪木博側も数年かけて住民への聞き取り調査をし、両者協働して文化財保全に取り組むなど、「共に学び、活動する」という姿勢が随所に見られました。

また、訪問期間中はちょうど「大溪木藝生活フェスティバル」が開催中で、普段は見るできない木工芸の工房・工場を見学することができました。体験学習のイベントもあり、私は鍛冶を体験しましたが、想像以上の重労働で、

正確に金属を鍛えることの難しさを知りました。オープンファクトリーは館長さんから工房への交渉・説得が大変だったとのことですが、日頃の大溪木博の取り組みがあってこそ可能になった試みだろうと思います。

さて、そもそもなぜ今回このような博物館を訪問したかという、私の職場では地域住民と地域の歴史・歴史資料を調査し保存する活動を行っており、これまでシンポジウム等で大溪木博の活動に触れ、ぜひその活動を参考にしたいと考えていたからでした。日頃地域の博物館と連携して仕事をする機会もありますが、博物館・大学と地域住民による協働で、人びとの生活文化を伝える展示を住民の生活・生産の場で行う取り組みは、日本においてはほとんどなされていないというのが現状です。また、産業構造の変化は避けられないことかもしれませんが、地域で古くから育まれてきた産業は、地理的・自然的なものも含んだ歴史文化を反映しているはずで、大溪の木工芸も、上流の山地から水運によって運搬される木材に恵まれ発展した産業ですが、少し前までは「木工芸の街」という認識もなされなくなっていたほどだったそうです。地域の博物館や大学が、歴史文化の研究・継承に加え、その活用にももっと積極的に関与していけるのではないかと思います。

今回の大溪木博訪問で印象的だったのは、博物館が空間的にも開かれている点でした。敷地内にある遊歩道は近所の人たちの散歩コースとなり、ちょうどイベント中で野外広場にお店が出店されていたこともあり、たくさんの訪問客が楽しそうに過ごしていました。博物館が身近で気安い、そして来やすい存在としてあることの重要性を実感しました。「普通の」博物館も私にとっては多くは楽しくおもしろいのですが、近年まれに見る楽しい博物館で、その実践からはとても多くのことを学ぶことができました。



桃園市立大溪木藝生態博物館

親切丁寧に案内して下さった陳館長を始め学芸員の皆様、快く迎えて下さった街角館の皆様、ご協力たまわった台北芸術大学の黄貞燕先生、通訳の詹慕如さんに、この場をかりて厚く御礼申し上げます。



10月14・15日

## 第60回 けやき祭

「けやき便り」編集クラブ



今年の「けやき祭」は10月14日(土)と15日(日)の2日間で開催され、シニア専修コースからは「軽音楽クラブ」「朗読倶楽部」「テニスクラブ」が参加しました。

### けやき軽音楽クラブ

「THE GAKU-YOU」は初日の14日(土)は野外ステージで、2日目の15日(日)は第1音楽室(1号館4階)でライブ演奏を行いました。

大きな目玉は、園田学園女子大学軽音楽部とのコラボです。

初日の14日は、15:50~16:25の間の演奏。「あの素晴らしい愛をもう一度」など3曲をTHE GAKU-YOUが演奏し、後半3曲は「オー・シャンゼリゼ」などを女子大軽音楽部とのコラボで演奏しました。

2日目は13:00~15:00の間を2部に分け、前半は女子大軽音楽部とのコラボを中心として、全10曲が演奏されました。女子大生からは単独でもNHK朝ドラの「らんまん」の主題歌「愛の花」など、素晴らしい演奏が披露されました。

後半は「THE GAKU-YOU」が単独で、おなじみの「岬めぐり」など7曲を演奏しました。

会場は満席に近い多くの観客で埋まり、手拍子や大きな拍手で大いに盛り上がりました。

(詳しくは、「けやきのわ」軽音楽クラブのブログをご覧ください)



「THE GAKU-YOU」の皆さんと女子学生のコラボ演奏

### けやき朗読倶楽部

「けやき祭」2日目の12:00~12:40の間に朗読倶楽部による朗読劇が演じられました。

#### ①桂三枝・作『美しく青き道頓堀川』

道頓堀川に住む子カメのカメ吉は、ゴミも捨てられヒトも飛び込む汚れた道頓堀川では生きていけないと、きれいな川を目指します。

時が流れてそのカメ吉の孫が道頓堀川を訪ねてみると・・・阪神の優勝に沸く今年の演目にふさわしい、笑いたっぷりの朗読劇でした。

#### ②浪曲・天津羽衣より『瞼の母』(長谷川伸原作)

幼いころに母親と生き別れて、渡世のやくざ者となった忠太郎が、江戸で母親と会うが・・・あー、母と子の思いが交錯するせつない物語。



朗読劇を終えて挨拶する朗読倶楽部の皆さん

### けやきテニスクラブ

昨年につき、女子大テニス部の皆さんと協力して、「ラリー(大人・子供)」、「まとあて」、「ゲーム」の参加者を募って皆さんに楽しんでもらいました。2日間で延べ400名(うち子ども約280名)と、たくさんの方が参加され、大盛況だったそうです。

(詳しくは「けやきのわ」テニスクラブのブログをご覧ください)



ゲーム参加者に対応するテニスクラブの皆さん

## 国際文化学科

## 新入生歓迎会を開催

国際文化学科2年 濱口 祐一

2023年6月26日、開花亭2F「チャティー」で新入生歓迎会を開催しました。

今年度シニア専修コース国際文化学科に入学された12名と、2年生9名、3年生3名、研究生7名と来賓の社会連携部寺田部長と国際1年・2年担当の玉城先生を含め33名が参加しました。今回の歓迎会は学年間の交流を促進することも目的でしたので、各テーブルには新入生のほか学年混ぜこぜにして交流が図られました。

和気あいあいとした雰囲気の中で歓迎会は進みましたが、何と言っても、1年生全員の自己紹介が面白かったです。皆さん、「投資とバドミントをするためマレーシアに長期滞在した」、「国際ボランティアの経験がある」など国際文化学科の名にふさわしい社会経験が豊かな方もおられ驚きました。また、「現在も仕事を続けながら園田に通っている」など新しい学園生活を前向きに楽しみたいという方が多く大変心強く感じました。

後半にはギター伴奏による上級生からの歌のプレゼントや全員による合唱もあり、会場は盛り上がりました。

あっと言う間の1時間半でしたが、無事に歓迎会は終了しました。

散会後には新入生だけでさらに食事会を開催したそうです。今年の国際の新入生は本当にパワフルですね!



国際文化新入生歓迎会集合写真(チャティーで)

## 文学歴史学科

## 懇親会 開催

文学歴史学科2年 長光 元久

10月26日(木)に文学歴史学科の懇親会が開催されました。

まずは参加された皆様の感想から

- ・1年生はとても実力のある個性的な方が多くて、シニア専修コースでこれから活躍されると思いました。(3年生)
- ・積極的な行動姿勢に刺激を受けた有意義な歓迎会でありました。(2年生)
- ・マジックの披露や全員での合唱も懇親会に色を添えて頂いてとても良かったと思います。(2年生)
- ・1年生の皆様がとても楽しそうにしておられ、実りある交流の場でした。(2年生)
- ・このコースが学び直しの場であることや、友人を作る場であることがよくわかりました。(1年生)

奇術を披露する  
中村純造さん

会場のチャティーで記念写真

このように奇術の披露(1年生中村純造さん)や最後の『サライ』の合唱などもあり、大変有意義で盛り上がった交流会でした。

## 日本史学習として 古墳と遺跡をたずねる

文学歴史学科1年 石谷 和彦

2023年11月14日に、文学歴史学科1年生主催の学習ツアーとして、奈良県にある「山の辺の道(南)」を散策してきました。

参加メンバーは当学科1年生14人と、同じ日本史学の授業を受けておられる先輩お二人。

コースは朝10時過ぎにJR柳本駅前に集合して、「黒塚古墳」→「行燈山古墳(崇神天皇陵)」→「櫛山古墳」→「渋谷向山古墳(景行天皇陵)」→「纏向遺跡」→「箸墓古墳」と廻り、みんなで昼食休憩(三輪素麺旨し)。

その後は大物主大神を祀る「大神神社」に参拝し、地元の蔵元である「今西酒造」に立ち寄り、お酒の試飲と土産物購入で締め括りました。



1500年前に思いを馳せて

全体では10キロメートルに近い行程で、時間の都合でかなりの駆け足とはなりましたが、脱落者もなく全員無事ゴール地である「JR三輪駅」にたどり着きました。

一番心配されていた天候は見事に晴れ上がり、暑過ぎず寒過ぎずの行楽日和で、皆さん古墳と遺跡に対する知識を深め、また交流も深められて意義あるツアーとなりました。

少し残念だったのは、季節柄の紅葉らしい紅葉が見られなかったことぐらいでしょうか。

「山の辺の道」は北側部分もありますので、またリベンジしてみたいところです。



纏向遺跡(居館城)で集合写真

## 私の川柳・自選集

国際文化学科2年 濱口 祐一

### ◆あまりにも不条理な!

今更言えない核ゴミ捨て場ないなんて  
ゴール順苦情になると横並び  
調べれば出るわ出るわのBM社  
厚労省消えた年金どうなった  
20歳以上かわざわざ聞くなこの爺に  
知らなんだ五輪はそんな甘い蜜  
舌打ちが聞こえる爺のセルフレジ  
蟻とても踏つぶされるとは思わない

### ◆己を詠む

赤い羽根 僕の甲斐性500円  
家事せんと 私死んだらどうすんの  
虫メガネで蟻を焦がした過去がある  
末席で黙っておればいいものを  
狭い家妻は一人でちょうど良い  
腕時計外して今日も素にもどる  
最近はやに下がることありません

### ◆世の中の法則

ほっておけその内世間忘れよる  
買ってでもする苦労もう売ってない  
神仏は名のらなければ功德なし  
薄くなりわからんようになる縁者  
赤い糸こんがらがって今の妻  
新年で冥途の距離が近くなる

### ◆心象風景

生き切るぞコントみたいな人生を  
古希過ぎて敗者復活まだやる気  
前頭葉鍛えるためにときめきを

### ◆川柳の掟に挑戦

車なしカーボンニュートラル昔から  
「ユダヤ教・キリスト教・イスラム教」  
みんな兄弟知らなんだ

## 松本清張『砂の器』の舞台 <sup>かめだけ</sup> 亀嵩を訪ねる

国際文化学科1年 飯田 光治

古い話で恐縮ですが、大学生時代に京都に住む1歳年上の従姉(いとこ)から、「小説の『砂の器』読んだ?長編で少し怖いけど面白いよ」と連絡があった。その従姉は、1974年に公開された野村芳太郎監督の映画『砂の器』を観て感動し、原作の松本清張の小説を読んですばらしい作品と思い、親しい友人などにすすめていたことをあとから聞かされた。

当時、光文社のカッパ・ノベルスという新書レーベルから人気作家の小説が数多く出版されていて、さっそく買い求めて2日間で読み終え、映画も3回観て、それ以来清張ファンになった。



『砂の器』のあらすじ: 東京・蒲田にある国鉄の操車場で殺人事件が発生するが、被害者の身元がわかるものは残っておらず捜査は難航する。しかし、被害者が殺害される直前にトリスバーである男と会っていたことがわかり、被害者の東北訛りと“カメダ”という言葉が浮かびあがり、二人の刑事は秋田県の亀田町(由利本庄市)に捜査に向かうが、何ら手掛かりが得られず難航する。その後、ベテラン刑事(丹波哲郎)の粘り強い捜査で被害者は東北弁と類似がみられる島根県出雲地方の亀嵩(かめだけ)で巡査をしていたことがわかり、やがて犯人にたどり着くというもの。

父親(加藤嘉)がハンセン病に罹り、生まれ

育った村を追われて親子二人で放浪の旅をして、旅先で迫害を受ける場面には大きな衝撃をうけ涙が止まらなかった。自身の出自が明らかになることを恐れて犯行に及んだ音楽家(加藤剛)には、あまりに哀しい結末で同情を禁じ得ません。

難病に対する偏見と差別、および親子の不幸な宿命に正面から向き合った松本清張を代表する社会派ミステリーの巨編と言える。

尚、この映画『砂の器』はVHSテープ、レーザーディスク、DVDへと進化する度に買い揃え、今までにおそらく30回以上は観ている。

後半40分のクライマックスシーンは名場面として今も語り継がれ、2時間20分を超える長尺にもかかわらず、全く退屈させず観るたびに新しい発見がある日本映画史上に名を刻む金字塔的作品と言っても過言ではないと思う。

『砂の器』の舞台となった亀嵩にいつかは行ってみたいと思っていたところ、交通手段のJR西日本・木次(きすき)線の存続が危ぶまれるニュースが新聞にたびたび掲載され、思い切って家内と二人で訪ねることにした。

木次線は便数が少ないので時刻表を何度見ても関西からの日帰りは難しく、島根県松江市で前泊し、翌朝宍道駅で木次線に乗った。列車が出発するまでの間、運転士さんに亀嵩周辺の見所を尋ねたが「亀嵩には何にもないので奥出雲の中心の出雲横田を散策しては」と言われた。



途中駅の本次駅で運転士が変わり、交代した運転士さんから奥出雲の周辺マップをいただいた。亀嵩を訪ねてきた乗客がいるとの情報が運転士さんの間で共有されマップを用意していただいたらしい。ありがたい話だ。

亀嵩駅にはお昼前に到着した。小さい駅なので実際の映画のロケでは使用されず、亀嵩駅から北へ二つ目の出雲八代駅が亀嵩駅として親子が離れ離れになるシーンなどが撮影されたという。



亀嵩の中心に向かってぶらぶらと散歩するが車にも人にも出会うことはなかった。国道沿いに掲げられている「ここはかめだけ うさぎはいない」の看板。亀のようにゆっくり走りてくださいという意味だろうか。



亀嵩を代表する企業「亀嵩算盤」。出雲地方の伝統的工芸品の雲州そろばんは、兵庫県小野市の播州そろばんに次ぐ生産量という。



亀嵩にある店はコンビニのポプラと JA 亀嵩の二つだけだった。JA 亀嵩では食料品、お酒、衣服、日用品などが売られていた。帰りの木次線の中でいただく食べ物とカップ酒、そしてお土産として出雲そばと野菜を買った。帰りの列車の時刻がせまっているので買い物は手短かにして亀嵩駅に引き返した。滞在時間はわずかで、亀嵩は何にもない山間地だが、どんな所かわかり訪れた甲斐があった。



オークションで普通サイズとミニサイズの亀嵩算盤が出品されていた。外箱はくたびれているが中は未使用の新品ということで、廃業した文具店の処分品かも知れない。そろばんとして使う予定はないが、オブジェとして、また亀嵩に行った思い出として二つ落札した。



阪急神戸三宮駅前にあるドラッグストアの「松本清」の横断幕が目に入るたびに松本清張が頭に浮かぶのは熱烈な清張ファン証だろうか。



# 『何者』 NANIMONO

文学歴史学科3年 田中 祐二



会社員時代の一時期に管理部署にて人事・総務関係の仕事に携わり、新卒・中途採用の面接業務を経験致しました。特に新卒採用は、広報、会社説明会を行った後、多くの面接人数をこなすので、かなり大変でした。新卒の面接でいまだに印象に残っているのは、「あなたのセールスポイントは？」という質問に対し、最初はすらすらと話し出すのですが、少し詰まると頭が真っ白になるのか、また冒頭の話から話し始め、それを何回か繰り返した学生が何人かいた事でした。多分、就職対策模範解答をこの通り言わなければ、と思ったのですが、聴きながら一緒に面接していた社員と思わず苦笑した思い出があります。

■ 2012年に発刊され直木賞を受賞した『何者』という朝井リョウの小説があります。就活に挑む学生のリアルな姿を描いた作品で、5人の若者たちの就活を中心とした生活のストーリーです。それぞれの若者たちの“何者”かになりたいともがく様が非常に分かりやすく描かれ、就活を通して自分を見つめ直すという苦行がひしひしと伝わってきます。

■ この小説が面白いのは、ストーリーに登場人物たちのTwitterが散りばめられており、合間に挿入されているその内容がとても生々しいところです（実名アカウントは建前ですが、裏アカウントでは強烈な本音なのです）。

私も経験がありますが、就職活動の苦しさは、誰かから拒絶される（つまり不採用連絡）体験を何度も繰り返すという事であり、また自分を過大にアピールし続けなければならないという事です。

登場人物の一人が人生を線路に例えているのが印象的です。

「人生が線路のようなものだとしたら、自分と全く同じ高さで、同じ角度で、その線路を見つめ

てくれる人はもういないんだって…今までは一緒に暮らす家族がいて、同じ学校に進む友達がいて、学校には先生がいて、常に自分以外に、自分の人生と一緒に考えてくれる人がいた。…だから今までは、結果よりも過程が大事だとか、そういうことを言われてきたんだと思う…もうね、そう言ってくれる人はいないんだよ」（新潮文庫 P250～251）

■ この小説の凄いところは終盤での「どんでん返し」です。登場人物の一人が、裏アカウントで他の人達を笑っていた主人公の行いを痛烈に批判する場面は一番恐ろしく、読んでいて冷水を浴びせられたような気分になり、青春群像劇小説と思っていたのが一気にホラー小説の様相を呈してきます。そして自分の中にある「性格の悪さ」みたいなものを引きずり出されて目の前に突き付けられた気分になり、一種のショック状態に陥ります。

「いい加減気づこうよ。私たちは、何者かになんてなれない…自分は自分にしかなれない」（新潮文庫 P309）

リアルな痛々しいやり取りに息が詰まりそうになります。

■ 読んでいて息苦しさを感しながらも、ラストは自分に正直になる事を主人公が気付いて終わるのが救いとなります。それまで薄暗いじめつとした雰囲気から一変して穏やかな読後感を味わうことが出来る小説です。

■ この小説は2016年に映画化されており、出演者が佐藤健、有村架純、菅田将暉、二階堂ふみ、岡田将生といった豪華キャストの勢ぞろいが話題となりました。大学生が社会の中に入り込んでいくストレスや必死さがとてもリアルに描かれ、お互いの検索記録が判明するシーンには、ホラー映画のような緊迫感を感じました。この映画でとても良かったのは、主人公の最後の面接シーン



です。不器用ながら新しい一歩を踏み出そうとした主人公の懸命な姿に感動を覚えました。

■ 園田の学内で本学生を見かけますと、近い将来、「就活」をされるのだと思い、ついエールを送りたくなります。採用担当時、某大学の就職課の方が挨拶に来られた時に、就活が上手いかず心の病になっている学生が多いという話を聞きました。面接で模範解答を何度も最初から繰り返した学生は、多分、自分とかけ離れた

「何者」かになろうとしたのではないのでしょうか。もし、今、新卒面接を頼まれましたら、私の最初の質問は次の通りです。  
「本当の自分を教えて下さい！」

■ そういえば私も「就活」ならず「終活」をしなければならぬ時期が迫っています。この年齢になりますと、特別に「何者」かになる必要もありません。配偶者欄に「妻」と書くべきところを、つい無意識に「毒」と書いてしまったパートナーやその周りの人達にいかに迷惑をかけないか、そのためにどうすべきかという事を考えるようになりました。賞味期限はもうほとんど残っていない私ですが、消費期限はまだ残っています。健康寿命をできるだけ伸ばせるよう努力をし、自分らしく、自分に正直に生きていこうとは思っています。

(写真 「何者」新潮文庫、映画DVDジャケット)

## わたしの練習作品

# 水彩画

国際文化学科2年 山根 邦男



京都 神宮道 青蓮院前 (2023.6.14)



神奈川 箱根強羅公園 (2023.7.22)



山梨 北岳(日本で2番目に高い山) (2023.9.15)

ミニミニフィールドワーク

# 忘れ去られた塚口城

研究生 阪田 正樹

1578年室町末期に阪急塚口北東に塚口城というのがありました。当時統治していたのが、有岡城（伊丹城）城主の荒木村重です。

荒木村重は当時、織田信長に仕えていました。しかし、突然信長に謀反をおこしたのです。ここからは私見ですが、1578年三木城の別所長治に対する兵糧攻めの民衆の飢餓、困窮を見て信長に対して異論を唱えたのかもしれませんが。このことは歴史書を参考にしてください。

謀反を起こしたときに有岡城の前線基地として塚口城を築城したのです。

築城と言っても天守閣などはなく、周りに壕を掘って、何ヶ所かに出入口を設けたのです。東に②東町門、南西に③南町門、北東に④清水町門、北西に⑤北町門と四ヶ所に門がありました。現状堀は水路として名残があるが、土塁はほぼ消滅しており、東町門脇の社が祀られている高台は土塁の名残です。阪急伊丹線沿いにある西ノ口公園は塚口城の西の口かもしれません。



①～⑤の写真についてはグーグルマップから引用しています

## ①塚口城址の案内板 と ②東町門跡の祠

(尼崎市塚口本町1丁目31)



## ③南町門跡の祠 (尼崎市塚口本町1丁目27-13)



## ④清水町門跡の祠 (尼崎市塚口本町2丁目24-22)



## ⑤北町門跡の祠 (尼崎市塚口本町2丁目7)



NPO 法人

## 「つどい場 さくらちゃん」

研究生 酒井 恵理子

「いらっしやい。良く来たね」と満面の笑顔で出迎えて貰い、手作りの美味しいご飯を食べながら、色んな悩みや世間話をしてお腹も心も満たされる居心地の良い場所。それが「つどい場 さくらちゃん」です。私がこのつどい場を知ったのは、7年前のあるテレビ番組でした。運営しているのは丸尾多恵子さん（愛称「まるちゃん」）。阪神西宮駅前にある一軒家。介護等ではどくなった時にいつでも来てもらえるようにと、平日は毎日開けていて、医療・介護職や行政マンも交じって、本音で語り合える貴重な場所です。

ここに通うきっかけになったのは、2年前にまるちゃん主催のオンラインセミナーに国際文化学科3年の M さんが受講されているのを知り、早速 M さんに連絡してつどい場に連れて行って貰いました。M さんは、まるちゃんや 99 歳のお母さんを 15 年間も自宅（最後はつどい場）で介護した経験のあるスタッフとも、懇意にされています。ここの利用料は1回 500 円。お昼代は別途 500 円です。



ある日のランチ  
コーヒー付きで  
500 円

調理師免許を持っているまるちゃんは、介護中は自分の食事がおろそかになりがちなので、美味しいものをたくさん食べて欲しいと、いつも腕を奮って下さいます。私はスタッフの一人で若年性認知症のご主人を 8 年間介護されていた方の作る卵焼きが大好きです。優しい味でほっこりします。

いつでもふらっと行きたくなる場所を目指して、20 年間全国から多くの見学者が訪れていま

した。老老介護中で、介護を受けているご主人が暴れて、介護者である奥様が一時避難したこともあったそうです。何でもありがこのつどい場です。コロナ前、まるちゃんは、あちこちで講演会を開いていました。しかしコロナ禍では利用者が減り、ランチ提供も一時中断して収入が激減。まるちゃん自身も入院を経験して、介護する側からされる側になったことや、スタッフの高齢化もあって、来年の春に活動に終止符を打つつもりだと聞きました。入院に至ったいきさつや、退院後のよもやま話を、ユーモラスに描いた本が発売されましたので、ご紹介いたします。本のタイトルは『まるちゃんの 老いよボチボチ かかってこい！』で、老いを受け入れることの難しさをこの本が教えてくれました。

12 月 23 日(土)に西宮市民会館で開催される「か(介護) い(医療) ご(ご近所) 楽快(がっかい)」が最後のつどいになるのではと思います。

まるちゃんの主治医であり、「痛くない死に方」の映画のモデルになった尼崎では有名な在宅医の長尾医師も講演されます。思えば 20 年前にまるちゃんの強い想いと、介護に対する怒りから始めたつどい場。一番難しいのはやめどきだと聞き、納得しました。介護経験者としては、感情の吐露ができ、人と繋がって、美味しい物を食べながら癒やされて、また明日への活力となる場所はとても貴重でした。共に笑い、共に泣くだけ・・・それを黙って聞いてくれる仲間達。これから人工知能が発達して悩みを入力したら、答えが返ってくるでしょうが、それでは解決にならないと思います。ただ頷いて聞いてくれて、ときおり大阪弁で突っ込まれる。私にとって「つどい場 さくらちゃん」で出会った方々は宝物です。 (本：クリエイツかもがわ)



## クアラルンプール便り — シニアの旅

## 投資とバドミントン

国際文化学科1年 久下 博史

クアラルンプールへは、バドミントン武者修行とアセアン投資の糧を求めてマレーシア長期滞在ビザ（MM2H）取得とともに行き始めた。投資とスポーツは異質なものだがプレー出来ずに生活のリズムが掴みづらかった事を思うと私の場合見事に折り合っていた様だ。書いていてバドと投資愛好の方に会えたらいいなと思っている。

4年ぶりにクアラルンプールに帰ってきた。懐かしさもあり表面的には変っていない様に見えるが、馴染みの雑貨店や食堂が代替わりしていたり両替店が半数以上無くなっていたりした。各所の大規模工事も休止している様に見える。現地プロバイダーによるとコロナによる2年半厳しい外出規制で外出して逮捕された人も多くあり子供たちも玄関から一步も出ていないという。日本の規制は緩すぎると感じるようだ。



クアラルンプール・セントラル店イートイン

その影響は小規模小売店、両替店廃業、タクシー台数減などに表れているのだと理解できる。安全と経済のバランスでの各国の取組の違い、「日本は強制できない国だから」のプロバイダーの言葉、考えさせられる。同じ事を日本でやれば暴動もんだよな。



ファミマ・ミッドバレー店 Oden レジ

これまで注目していたファミマにも異変を感じた。6年前に大きなイートインスペースと日本にない“マレーシア流おでん”を伴って出店攻勢が始まり、それに並ぶ長蛇の列を受けておでん専用レジ設置、小人数でのテキパキとした多能工的店員の見事さ、それらを経て市民権を得てきた。今回、店員の動きや入荷物品が店内山積になっているのに違和感があった。単なる人員不足ではないと思う。



マレーシア流おでん

日経新聞にタイ現地法人がファミマと契約を解除し独自路線に舵を切ったとある。日本流の運営ノウハウを十分に吸収し提携を維持するメリットがなくなったとも。同様の事態かどうか判らないが売場運営の「美しさ」が消えない事

を願うばかりだ。

今回も、人流や町の雰囲気など定点継続観測してみた。ミッドバレー（大規模モール）は、行列ができ一等地にあった両替店、5リンギショップ（100均店）が全部なくなっていた。人通りは以前より少ないがそれ以外に大きな変化はない。ブキビントン（クアラルンプール中心繁華街）は、中核のパビリオンのスペース大幅拡大し集積が進んでいる。周辺のモールやビル内店舗が閑散としている。店の格差が色濃い。



ワトソンズ

ワトソンズ（香港ドラッグストア）と、ユニクロは変わらず好調そう。サムソンは閑散継続だ。中国通信機器（OPPO）の売場や大型看板が目につく、大きく拡大しているのか注目したい。

オニツカ（アシックス）の店が出現している。同行した家族によれば日本ですでに人気があるとの事だが知らなかった。中華街は馴染みのバクテー店は廃業、多くの小売店舗も品揃えが軒並少なく見える。魅力のない街になりつつある感。生き残っている店はそれなりの強みがあるんだろうな。



カット果物店  
(100g RM2.8 で気に入っている)

マレーシア通貨リンギット（RM）為替レートはRM32円強、前回RM26円だったから、マレーシアが発展したと言うよりも日本が下降したのだろう。銀行送金手続きで日本の銀行手数料が高いのが気になった。

プロバイダーによると日本金融は手数料中心のビジネスモデルだからとの事。証券取引でも海外から手数料無料の波が

通貨	レート	レート
USD	4.0550	4.0550
GBP	5.2450	5.2850
JPY	36.30	36.60
AUD	4.6700	4.7000
HKD	3.0650	3.0350
CAD	2.9600	2.9750
SGD	51.40	51.78
CHF	3.1128	3.1489
EUR	4.0650	4.0950
NZD	2.7220	2.7880
THB	13.12	13.20
KRW	3.50	3.58
INR	5.80	5.90
MYR	61.90	67.00
PHP	43.90	48.90
VND	48.50	NA
IDR	12.35	12.35
SGD	58.85	58.35
CNY	282.00	284.00
HKD	1.0600	1.1000
SGD	7.85	7.75
PHP	173.70	175.20
VND	1.0850	NA
INR	2.9500	2.9750

両替店レート

寄せてきている。淘汰と混乱の匂いがする。

今回はマレーシア銀行の取引終了が目的だった事もありバドミントン仲間には連絡しなかった。外出規制で多分練習もなくなっていただろうと思う。私も体調の悪さがありプレーを休止しているのだが復活を模索中だ。

この時のことを『クアラルンプール便り』の中で次のように書いている。

——夕方バンサーでバドミントン練習。いつものようにHi!と手を挙げたり、目線で歓迎してくれる。合間には齢の話で盛り上がった。同年代がかたまる傾向は日本と同じ、体より口が動く事も同じだ。怖い顔のマレー系、インド系や中華系の人でもプレーには真剣そのもの、ほんとに負けず嫌いなんだから。言葉が不十なのがまどろっこしい。話したい事は山ほどあるのだけど。私の名前が発音しにくい様で急な時にはHey Japan!と来る。私もマイネームイズJapanと返す。こんな時間をほんとに大事にしたいと思う。——

バドミントンへの情熱は消え・・・ない。

## 85歳までの風景 その1

## —大学卒業まで—

研究生 中村 米三郎

9月12日に85歳になりました。生まれてから今日まで、どのような風景を見ながら生活してきたのか気になったので、85年間で心に刻まれている風景を振り返ってみました。

## 1. 小学校(国民学校)に入学するまで

(5才) 戦時下の食糧事情の悪い時、母は私と兄を連れて地方に汽車で食料品を買いに行きました。私は、その時汽車の中で兵隊さんに出会います。兵隊さんに「敬礼」をしました。

兵隊さんは「敬礼」を返されて、「君、これを持っていきなさい」と言われて、紙包みを渡されました。

母にその包みを渡すと、中身は「お砂糖」でした。母は、「これをあなただけが頂くのは申し訳ない」と言って、近くにいる子供たちを呼び集め、「お砂糖」を配りました。母には隣り組感覚があった、のだと思います。

(6才) 戦時中では、夜、着替えは揃えて枕元に並べて寝ますが、「空襲警報」のサイレンが鳴ると、普段着に着替えて、庭に掘ってある「防空壕」に入ります。昭和20年3月13日の大阪大空襲では、「防空」をすぐに出て、



なん時間も逃げ

ぎ感えます。悲惨な光景にも出会いました。家は跡形もなく、焼けていました。朝がた、近くにあった小学校に集まれ、ということで小学校に行き、大きな「おにぎり」を頂き知らない人たちと一緒に食べました。何故か、涙がこぼれてきました。

(写真 大阪難波あたり Wikipediaより)

## 2. 小学校時代

(小1春) 空襲で家が焼かれたので、生駒山大阪側の中腹にある母の姉が住む近くに引っ越しました。昭和20年4月大戸村立国民学校(現東大阪市立石切小学校)に入学しました。



ある夜、家が高台にあったので、大阪の方を見ると、空が真っ赤になり大阪が燃えていました。また、大阪が大空襲に会っていました。

(写真 東大阪市立石切小学校)

(小1夏) 夏休みに近くの畑を耕していました。上の方で爆音がするので上空を見ると、アメリカ軍のグラマン戦闘機が私の方に向かって急降下していました。母が、大声をあげて走ってきます。そうしたら、グラマン戦闘機が反転して上空に去っていきました。母が来なかったら私はどうなっていたのか??

(小1夏) 昭和20年8月14日、近くで大人たちが「明日の正午、大変なラジオ放送があるそうだ」と言って騒いでいました。

翌15日の正午、天皇陛下の放送がありました。意味がハッキリ分かりませんでしたので、姉に聞いてみました。「戦争が終わったらいい」ということでした。

(小3) 父が南方から、復員してきましたので住居を大阪に移し、大阪市立集英小学校に転校しました。

(小4) 学校では、午後の授業もありました。当然、弁当を持っています。ただ、弁当を持ってこない児童もいました。その時、先生が「今日、弁当を忘れた人、手をあげて」と仰います。

毎回、弁当を持ってこれない児童がいます。先生は、午前中に職員室でふかしておいた温かい「おいも」を下さいました。私も、数回お世話になりました。

(小5) 豊中市に転宅し、豊中市立克明小学校

に転校しました。家の前の広場に大きな木がありました。そこで、よく遊んでいました。

ある日、私とその木に登っていると、誰かが、木を揺らしました。私は、木から落ちて左手の関節を折りました。その頃は、まだお医者さんはあまりおられなくて、「接骨院」で治してもらいましたが、真



っすぐに治ってはず、今でも左の関節は少し曲がっています。(写真 ある海岸で 右側が私)

(小6) 担任の先生が、毎日、15分程、「太閤記」の話をされます。私は、その話が好きで、歴史が好きになりました。お蔭で中学・高校の歴史はトップクラスでした。

### 3. 中学校時代

昭和26年4月豊中市立第一中学校に入学しました。まだ戦後の名残りが色濃く残っており、クラブ活動で「バレーボール部」に入りましたが、コートがありません。クラブの顧問の先生から、この土地を予定しているので、「コート作りから始めよう」と言われたので、コート作りを行いました。

まず、予定地を耕して、草・小石等を取り除き、その上に少し上質の土を撒きました。



ポールとネットを買って頂き完成しました。このコートは、今後校内バレーボール大会にも使われ、中学校での存在感を増していきました。文化部では、私は、なぜか「数字」が好きだったのですが、「数字部」というわけにはいきませんので、「数学部」を作りました。「数字とともに」というテーマで「けやき便り2号」に投稿しています。

(写真 3年生 宝塚蓬莱峡で飯盒炊さん)

### 4. 高校時代

昭和29年4月大阪府立豊中高校に入学しま

した。勉強に関しては、授業を脱走して近くの公園で遊んだり、ある運動クラブが対外試合に参加したので、授業を一日休んで応援に行ったりしていましたが、担任の先生にかなり厳しく叱られた記憶しかありません。

文化クラブでは「地球物理研究会(地研)」に入会しました。同学年では7名が入会しましたので、星座の名にちなんでスバル会という名前をつけて活動しました。ただ、残念ながら、その7名は、今は3名になりました。



(写真 3年生 地研の天体観測 右側の上が私)

### 5. 浪人時代

昭和32年3月高校を卒業。国立大学一期校を受験しますが、あえなく桜は散り浪人になり、YMCA予備校土佐堀校に入学します。

予備校までの通学路に、阪急電車は京都線で十三・梅田間の線路工事中で新淀川鉄橋の建設や中之島のフェスティバルホールも新築中であり、その工事を見ながら通学しました。

### 6. 大学時代

昭和33年4月関西学院大学経済学部に入会しました。

大学のゼミでは経営統計学を専攻して、ゼミ生4名で「経営統計研究会」を作り、教授がおられない時は、教授の研究室に籠り電動計算機を動かしながら資料を作り、その資料を基に研究会の仲間と遅くまで議論ばかりしていました。「時間」は、知らない内に過ぎていきました。



(写真 「経営統計研究会」の友人と右2人目)

## 画家ゴッホの未発表作品？

# 画像AI体験記

国際文化学科2年 篠岡 信吉

画家ゴッホが富士山と嵐の海をモチーフにして描いた作品（右図）で、最近発見されたものです。と言われても信じがたいですね。ゴッホは来日していないですからね。

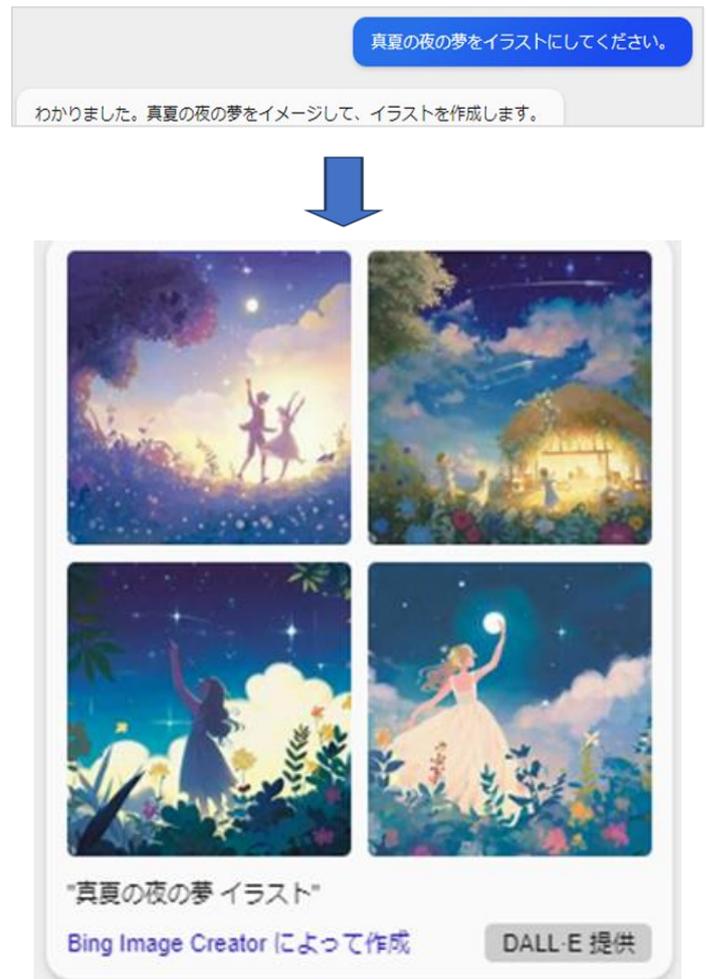
実は人工知能（AI）が描いた作品です。ゴッホらしい特徴をよくとらえていますね。画像生成サイト *stable diffusion playground* にログインし、プロンプトに *Gogh, stormy seas, Mt fuji* と入力すると、しばらくしてゴッホが描いたような画像4枚が現れたときには驚きました。そのうちの気に入った1枚です。富士山は荒れた海の波と雲で隠れています。

作家や油絵等の画風、と場面を指定するごく簡単な方法で画像が生成されます。入力は7月現在、英語なのが面倒なのですが、ゴッホの画像が現れたことで感動し、いろいろ試しました。そのうちの富士山と桜をモチーフにして、実写風（写真）と睡蓮で有名なモネが描いたような絵画をご覧ください。



ChatGPT では画像の生成には対応していませんが、マイクロソフトの新しい *Bing* ではどうでしょうか。プロンプトに「真夏の夜

の夢をイラストにしてください。」と入力するとしばらくして、画像生成AIの *DALL-E* から *stable diffusion playground* と同様4枚の画像が生成されました。



画像生成AIがここまで進み、身近な存在になっているとは思ってもよかったです。読売新聞のネット版でも、今年の春ごろからAI画像の生成が劇的に簡単になり、利用者が増える一方です。とあり、使ってみて全くその通りだと実感しました。

報道写真が実写ではなく画像生成AIで作成されたものであったという弊害も起こっているようですが、簡単に画像が生成できることから、現在いろいろな分野で活用されているのでしょう。

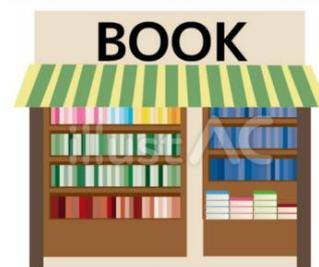
今後は人間が画像生成AIを使いこなし、立派な作品を作り出してほしいと思っています。

以上、画像生成AIを使っの当方の入門的、初歩的な体験であることをご了承ください。

(原稿受付令和5年7月)

# 頑張れ！！町の本屋さん

研究生 藤原 多計治



## 本屋さん減少の理由

町の本屋さんが減少している、全国で1999年には2万2000店余り展開されていたが2020年には1万1000店と21年間で半分に減っている

(注1)。人口の少ない地域に限らず、町の中心部にある本屋も閉店しており、尼崎でも昭和61年には56店舗であったが、平成21年は18店舗に減少している(注2)。何故減少するのか理由を調査した。

本屋さんでは、本を手にとってじっくりと選ぶ事ができ「こんな本が出ていたんだ」と偶然の出会いも期待できるが、そうした「豊かな時間を過ごせる場所」がなくなっている。何故なくなりつつあるのか。

読書離れが進むなかで出版市場の縮小、本や雑誌が売れなくなっていることによる。出版物の推定販売額は、1996年の2兆6,564億円から2022年の1兆1,292億円と、この26年間で約57%減となっている。特に週刊誌や月刊誌等の雑誌類の落ち込みは69%減と大きい(注3)。コンスタントな売り上げが見込める雑誌の部数減は、本屋さんの売り上げに大きく影響を与えている。

雑誌類の売り上げは本屋さんにとって定期的な収益源であり、とくに売場面積の限られた小規模な町の本屋においては売上確度や継続性の面で経営の軸におかれているが、雑誌を扱うコンビニの増加が町の本屋の経営を圧迫している。

またアマゾンなどのネット販売の台頭や電子書籍の普及も影響を与えており、このように「実店舗を介さない販売形態の変化」も要因として挙げられる。実際に本屋さんに立ち寄ることなく、本を読むことが出来る利便性があり、またスマートフォンの普及により、本・書籍で情報収集していたのが、前述した各種の情報機器に

より、その役割が得られるようになったので、本を読み調べものをするという「習慣」が失われたことも大きい。

## 本屋さんの経営実態

個人経営の本屋さんの経営は厳しいと言われており、利益が出ない商売構造となっているらしい。

本屋さんの商売形態は、出版社、本の間屋さんである取次店、そして末端の本屋さんからなる。本屋さんの商売システムに「見計らい本」制度がある。取次店が本屋さんが注文しなくても、本屋さんに勝手に送る制度で、本屋運営に厳しい状況が強いられる。

またこの制度で「ランク配本」がある。店舗規模によって各本屋さんに配本される冊数が決まる制度で、どれだけ話題になった本であっても、町の小さな本屋さんには必要な冊数は配れず、ショッピングモールなどにある全国展開型の店舗に流れてしまうので、経営はより厳しい。

全国展開型の店舗は、大規模小売店舗の規制緩和により、超大型書店の出店が容易になり個人経営の町の本屋が厳しくなっている。

町の本屋さんの閉店が多くなっている要因としては、本屋さんの後継者難がある。

本屋さんの仕事は、店舗での販売もあるが個人宅への配達販売が多いとされている。配達業務は、意外と厳しく「体力」が必要とされている。町の本屋さんの経営者が、高齢化に伴い配達業務が出来なくなり、閉店を決断される場合も多い。

本を手軽に手にとることができる環境を残してほしいと思う。

(注1)(注3)全国出版協会出版科学研究所調べ

(注2)兵庫県書店商業組合調べ



## 松山先生と行く 北海道-アイヌを訪ねて-の旅

文学歴史学科3年 小笠原 昭博

2023年9月4日～7日、3泊4日のスケジュールで“松山利夫先生と行く『北海道-アイヌを訪ねて-』”の旅に参加しました。総勢18名で、松山先生の授業を受講している国際文化学科の研究生と1年生が主体でした。

### ◆イランカラプテ(こんにちは) 9月4日

旅は、「イランカラプテ(アイヌ語でこんにちは)」から始まりました。白老町『屋根のない博物館通り』で、シマフクロウ・北を守る武士等の展示で、北海道に来たことを実感しました。

次に、登別市『知里幸恵銀のしずく記念館』を訪れました。知里家は森と登別川に囲まれた自然の中にあり、こうした自然が知里幸恵を育てたことが分かりました。知里幸恵は、長く口承されてきたアイヌの神謡(カムイユカラ)を文字化し『アイヌ神謡集』を著作しましたが、序文(大正11年)を読むと、19歳の幸恵がアイヌ民族の歩まされた悲しい歴史を朗々と語り、アイヌ民族について広く知って欲しかった気持ちが伝わってきました。

### ◆アイヌの文化・歴史・闘い 9月5日

平取町にあるアイヌ文化の継承地「二風谷コタン」内の『萱野茂二風谷アイヌ資料館』を訪れ、館長の萱野志朗さん(萱野茂さんのご子息)から、資料にて以下の説明がありました。

①萱野茂さんの業績について、アイヌ民族の文化財・資料を収集し、1121点が重要有形民俗文化財に指定された。アイヌ初の国会議員としてアイヌ民族の復権に生涯を捧げたこと。②和人・松前藩によるアイヌ民族の生活・文化の破壊と苦難に対して、抵抗の戦いがあったこと。③20世紀末になって、政府から先住民族として

認定され、アイヌ民族の文化復興への取り組みが始まったこと。

萱野志朗さんの話からは、先住民族との認定を勝ち取るまでの長い間、アイヌ民族が受け続けた辛い歴史が滲み出ていました。



次に、『平取町二風谷アイヌ文化博物館』を訪れました。学芸員の方の説明を聞きながら、アイヌ民族が使用した衣類・祭儀用具・装飾品・道具類・丸木舟等を見学。屋外ではチセ(家の萱の吹き替え現場も見学でき、公開されたチセで、アイヌの民族楽器「トンコリ」の演奏(優しく澄んだ音色)も聴かせてもらいました。

その後『アイヌ工芸伝承館』で、樹皮の繊維で織った衣類・木彫り・刺繍の作業現場を見学して平取町を後にしました。

午後、2022年白老町にオープンした『ウポポイ民族共生象徴空間』を訪れました。『体験交流ホール』で30分程アイヌ民族の伝統舞踊を鑑賞しましたが、踊る女性の長い髪が大きく揺れ迫力溢れた踊りでした。ウポポイ内の『国立アイヌ民族博物館』の展示物・映像等を見て回りましたが、建物施設が巨大で立派、展示も奇麗すぎて、アイヌ文化の持つ素朴で精神的な奥深さは伝わってきませんでした。

### ◆アイヌと和人の歴史を受け継ぐ 9月6日

午前中、洞爺湖を一望する展望台に立ち寄った後、『札幌市アイヌ文化交流センター』を訪れました。ここでも伝統的な衣類・祭儀用具・器

類・装飾品等アイヌ民族ゆかりの品々が展示されていて、それらを手に取って見ることができました。



札幌市の松平亜実さんの案内で展示室・屋外施設を巡りましたが、当初、園田学園女子大学と聞いて若い学生にどう説明するか戸惑われたとのことでしたが、我々シニアを見て安堵されたようでした。アイヌと和人の両方のルーツをお持ちの松平さんのお話を聞いていて、アイヌ・和人両方の歴史を受け継がれておられる複雑・繊細な気持ちが伝わってきて、何とも言えぬ切なさがこみ上げてきました。

屋外では、イユタブ（精米機）・チセ・ヤブ（倉）・ペペッセ（小熊の檻）・イタオマチブ（全長15mの外洋船）等を見学しました。

午後、『田中酒造亀甲蔵』に行きましたが、ここでは稗から作ったアイヌのお酒「カムイトノト」を再現・製造しており試飲ができました。

その後、札幌市の『琴似屯田兵村兵屋跡』を見学しました。琴似は1875年に屯田兵・家族合わせて965人が入植したそうです。冬の北海道では極めて厳しそうでした。

#### ◆『夷酋列像』に描かれた意味を学ぶ 9月7日

午前中、札幌市厚別町にある『北海道博物館』を訪れました。初めに講堂で、佐々木利和先生から、松前藩蠣崎波響がアイヌの長を描いた「夷酋列像（いしゅうれつぞう）」について説明を受けました。アイヌの長の名前を例えば「チョウサマ」を「超殺麻」と漢字記載するなど、和人の上から目線で描かれているとのことのお話でした。

「夷酋列像」12名のアイヌの長、いずれも衣装・姿勢・容姿等独特で人間離れした姿に描いており、蠣崎波響がいかにかアイヌの人々を蔑視

していたかを示す証のような気がしてなりませんでした。

その後、同館で開催中の「北の縄文世界と国宝」展を見学した後、隣接する『北海道開拓の村』を訪れました。ここは明治から昭和初期にかけて北海道で建築された建造物50棟強移築・復元した屋外博物館ですが、その中で印象に残ったのは、小樽から移築した「ニシン御殿旧青山家漁家住宅」です。家族の住居部屋に加え60人強寝食出来る大部屋がある大豪邸でした。ニシン漁がいかにか莫大な富をもたらしたかを物語っていました。

#### ◆出会い・学び・交わりの旅でした

アイヌ民族の関係施設を数多く訪れましたが、各施設で現地の素晴らしい方々からお話を聞くことができ、アイヌ民族について書物を超えて身に迫った生身のこととして理解を深めることができました。現地を訪れ、見る・聞く・触れる・フィールドワークの面白さ・楽しさが実感できた旅でした。

移動中のバス内では松山先生から、アイヌ語の地名に漢字を当て嵌めた北海道の多くの地名の紹介、松浦武四郎や最上徳内の足跡の紹介があり、まさに動く教室でした。

先生を囲んで皆さんとの交わりが毎晩開かれ、大学の合宿のようで時間の経つのを忘れしました。

\*この旅の事前学習として7月に、北海道の名付け親と言われる松浦武四郎の記念館に、学園のバスで先生と共に、31名で行きました。



ありがとうございました(イヤイライケレ)。

# 漢詩を学ぶ (その三)

文学歴史学科3年 松原 光治

## はじめに

漢詩の中には様々な別れを詠った詩が多く見受けられる。友との別れを詠った詩、単身赴任先または流刑地から遠く離れた妻や子供との別れを悲しむ詩、この世との別れや亡くなった人との別れを悲しむ詩など。その三では、このような詩を学ぶことにしたい。

## 友を送る

李白、杜甫、白居易などと並ぶ唐の時代の大詩人の一人王維さんの代表作の一つ「元二の安西あんせいに使いを送る」<sup>1)</sup>と題する七言絶句がある。送別詩の代表作と言われて、中国はもちろん日本でも別れの宴席で詠われる詩として有名だ。

いじょう ちょうう けいじん うる  
渭城の朝雨 軽塵を浥おす  
かくしゃせいせい りゅうしよくあらた  
客舎青青 柳色新なり

君に勧む 更に尽くせ一杯の酒

西のかた陽関を出づれば 故人無からん

王維さんの友人で元二さん（元一族の息子たちの二番目の年長者の呼び方で、具体的にだれをさすかは伝わっていない）が、公用（左遷かもしれない）で、安西（現在の新疆ウイグル自治区、都・長安から数千キロかなた遠隔の地）へ旅立つのを送るとい詩だ。現代のように交通や通信手段が発達しているわけではない。もう二度と会えないかもしれない遠隔の困難な旅に出るのだ。親しい友であればあるほど、別れがたいだろう。当時は、都から西域いじょうに旅立つ人を見送るのに、20数キロある渭城まで一緒に歩いて、そこで別れの宴会を催し、見送る習慣があったそう。昨夜までさんざん別れの杯を交わしたのだろうけれど、最後の最後の別れの

朝、もう一杯別れの酒を飲んでくれ、この先の関所を過ぎれば、もう知った古い友人はいないのだから。親しい友達との別れの寂しさ、辛さ、そして励ましの気持ちが切々と伝わってくる詩だと思ふ。

## 別れている家族を想う

後世『詩聖』とまで言われた杜甫さんは、有名な玄宗皇帝と楊貴妃の話の背景になった安史の乱のときに、反乱軍にとらえられ幽閉されたことがある。この時、家族は都から遠く離れた鄜州ふしゅうに難を逃れて疎開していたそうだが、その時に詠んだと伝わる『月夜』<sup>2)</sup>と題する五言律詩がある。

今夜 鄜州の月  
けいちゅう た ひと み  
閨中 只だ独り看るならん  
遙かに憐れむ小児女の  
未だ 長安を憶うを解せざるを  
こうむ うんかんうるお  
香霧に雲鬟湿い  
せいき ぎょくひ  
清輝に玉臂寒からん  
何れの時か 虚幌に倚り  
とも るいこんかわ  
双に照らされて 涙痕乾かん

自分は捕らわれの身で月を見ているのだが、妻は遠く離れた疎開先で、たった一人同じように月を見ているのだろう。かわいそうに思うのは、まだ幼い子供たちが父であるこの私が遠く離れた長安で囚われの身であることを理解できないでいることだ。妻のきれいな髪は、寝室に流れ込む夜霧によってしっとり潤い、清らかな月の光が玉のような肌を冷たく照らしていることだろう。ああ、何時になったら夫婦二人で部屋のカーテンに寄り添い、月の光に照らされて悦びの涙が乾くまで月を眺めることができる

のだろう。哀しく、切なく妻を想う作者の気持ち切々と伝わってくる詩のように思う。この時、杜甫さんには四人の子供があったそうだ。四人の子供を成した古女房に、『雲鬢<sup>うんかんうるお</sup>湿い』だの『玉臂<sup>ぎよくひ</sup>』だのは言い過ぎではないかとの批評もあるようだけれど、それは心から愛する奥さんを持ってなかった不幸な男の言い草と考えるほうがいいのだろう。その後、ようやくのことで長安を脱出した杜甫さんは、新しい皇帝のもとに駆け付け、官僚として内戦の勝利と国家の再建に尽力しようとしたのだが、官僚としてはうまくゆかなかった。家族とともに流浪の生活を送り、その中でたくさんの素晴らしい詩を残したのだ。安史の乱は九年間も続き、国土を破壊し尽くした。「国破れて山河あり・・・」で始まる有名な『春望』は、この内乱で破滅した国土を見て作られたものだ。

### とうぼう 悼亡詩

悼亡とは、死者を悼むという意味で使われていた。三世紀に潘岳<sup>はんがく</sup>さんという詩人が亡くなった妻を悼んで三首の長い連作詩を作った。これ以来、悼亡詩というと一般に夫が亡くなった妻を悼んで作った詩をさすようになったという。たくさんの詩人が悼亡詩を作っているのだが、ここに挙げるのは、宋の時代に科挙の制度改革に活躍したという梅堯臣<sup>ばいぎょうしん</sup>さんという詩人の悼亡詩<sup>3)</sup>。

髪<sup>かみ</sup>を結<sup>むす</sup>びて夫婦<sup>な</sup>と為<sup>な</sup>  
 今<sup>いま</sup>に干<sup>かい</sup>て十七年  
 相看<sup>あいみ</sup>ても猶<sup>な</sup>おた<sup>た</sup>らざるに  
 何<sup>なん</sup>ぞ況<sup>いわん</sup>や是<sup>こ</sup>れ長<sup>とこしえ</sup>に捐<sup>す</sup>つるをや  
 我<sup>びん</sup>が鬢<sup>すて</sup>已<sup>い</sup>に多<sup>い</sup>く白<sup>く</sup>く  
 此<sup>こ</sup>の身<sup>み</sup>寧<sup>いずく</sup>んぞ久<sup>ま</sup>しく全<sup>ま</sup>からん  
 終<sup>つい</sup>に当<sup>まさ</sup>に与<sup>とも</sup>に穴<sup>あな</sup>を同<sup>おな</sup>じうすべきも  
 未<sup>いまだ</sup>だ死<sup>な</sup>せざれば涙<sup>なみだ</sup>連<sup>れん</sup>れんたらん

結婚して十七年とは、今の感覚で言うと短いように思うけれど、千年も昔の話だ。平均寿命も短かったに違いない。自分の髪も白く薄くなって、ともに同じお墓に入ろうと誓った妻に先立たれた男の悲しみがよくわかる詩だと思う。梅堯臣さんは、この奥さんのためにたくさんの悼亡詩を作ったことで知られているそうだ。よほど仲の良い夫婦だったのだろう。彼は、それまでの華麗な文体の詩ではなく、身近なものを題材に平淡な表現で詩を作ることを勧めたそうだ。宋詩の方向性を決めた詩人という評価の一方で、華麗さを好む人には人気がないとの評もある。この人が詠んだ『耕牛<sup>こうぎゅう</sup> (耕<sup>たが</sup>す牛)』と題する五言律詩では、朝早くから月の出る夜遅くまで、首の皮が擦り切れるまで働かされ、やせた自分の子牛の世話をする暇もなく、十分にはエサももらえず、しかも雪の降る寒い冬には放牧地に放り出されてしまう哀れな牛を詠っている。牛になぞらえて、搾取にあえぐ農民や貧しい人たちに同情した詩なのだろう。ある程度の高級官僚になっていながら、このような詩が詠めるのは、心の優しい人に違いない。だからこのような悼亡詩も書けたのだろう。

### 終わりに

これからもずっと漢詩を学んでいくつもりだし、『その四』を書きたい気持ちは強いものだけれど、とりあえずの区切りとして、この稿で一旦の終了としたい。拙い文章を掲載してくださった編集クラブの皆さん、もし読んでくださっている方がおられたら読者の皆さん、自分勝手な漢詩の旅にお付き合いくださり、本当にありがとうございました。

### ◆参考資料

- 1) 『心がなごむ漢詩フレーズ 108 選』 渡部英喜、平井徹
- 2) 『詩人別でわかる漢詩の読み方・楽しみ方』

鷺野正明監修

- 3) 『中国の名詩 101』 井波律子編

# アフターコロナを楽しみます

国際文化学科1年 吉武 俊行



3年間、WITH コロナ生活で人と接する機会が少なくなり、飲み会は全く無くなってしまいました。昨年の秋、そろそろ WITH コロナ生活も終わりそうな気配を感じ、新しい生活スタイルを考え始めました。適当なものはないかとインターネットで探していて、園田学園女子大学シニア専修コースの募集がされていることを知りました。園田学園女子大学ならば家から自転車で通うこともでき便利なので、入学のための面談を受けることにしました。

学力試験や入学動機などを書く願書ではなく、なぜ面談なのか不思議に思いました。実際に面談を受け、面談の主旨は若者に対する学力適性検査とは異なり、シニア世代の衰えていく体力と認知機能が通学・学習に耐えられるかの検査だった(笑)と納得しました。後期高齢者の運転免許更新制度に通じるものようです。

当日12月9日の面談希望者は私一人だけでしたが、3階までの階段を昇ることができ、普通に会話のできたので、体力・認知機能テストに合格したはずだ(?)と自分に言いました。無事入学を許可していただき、現在は楽しく通っています。

ただ月曜日の授業は午前中を想定していたのですが午後になり、他の用事との関係で半分しか出席できていないのが残念です。来年度は調整して9割は通いたいと思っています。

授業はアイヌ民族の歴史、沖縄の歴史や世界の捉え方など、それまで興味・関心を持ったことのない内容で、毎回の授業が楽しみです。日本語には東京方言と琉球・沖縄方言の2つしか方言がないことを初めて知りました。

授業出席は楽しいのですが、6月になりせっかくの学園生活ですので、授業以外の場はないかとサークル活動を探しました。事務室の前で「けやきカラオケクラブ」のチラシを目にし、歌うのは好きなので、さっそく例会に申し込みました。初めての参加でしたが、5~6人の学友・先輩と同室で、4曲ほど歌いました。久しぶりのカラオケ

です。うまうま歌えない曲もありましたが、2時間程度を楽しく過ごすことができました。

カラオケを酒抜きで歌ったのは初めての経験でした。会費はカラオケ代のみ、今までに歌われた全曲のリスト付きというのには本当に驚きました。3回目の例会ではリクエスト曲に挑戦し、終了後の飲み会にも参加させてもらいました。

まだまだ暑さの残る9月下旬に、妻と一緒に一泊二日の信州バスツアーに参加しました。新大阪からバスに乗るときには夏の暑さが残っていました。初日のメインは「そらさんぽ天龍峡」で、高い位置から眺める天龍峡とそこを走る列車の風景は絶景でした。宿のパフレットには「ph9.7 という強アルカリ性を誇る昼神温泉は、日本屈指の美人の湯です。アルカリ性泉質が美人の湯と呼ばれるのは、お肌の古い角質をとり、スベスベ滑らかにするといわれているからです」と書かれていました。実際に温泉の湯につかるとぬるぬる感があり、有馬温泉とはまた違う良質感を感じました。

2日目は駒ヶ岳ロープウェイに乗って標高2,612mの千畳敷カールに登り、遊歩道を約1時間散策しました。遊歩道とはいえごつごつした岩も多く急な道もあり、スニーカーでは厳しい場所でした。宿の周辺の気温は30度でしたが、ここは10度以下で上着を着ないと寒いほどでした。「ここより上は登山装備が必要」というところには足を踏み入れませんでした。それでも充分信州の山の気分を味わうことができました。

両日とも天候に恵まれ、秋の訪れを感じることができました。そして帰ってきて1週間ほど関西地方にも秋が訪れました。

よもやま話の会報告

# 出会い・つながり・学ぶ

文学歴史学科3年 河田かつのぶ

23回 伊丹ミュージアム見学 6/14

## 旧岡田家住宅、旧石橋家住宅

お話 伊丹ミュージアム学芸員・伊藤さん

酒造業で栄えた伊丹の歴史について、展示物を見ながら解説を聞きました。ミュージアム内の、酒蔵

(旧岡田家)と、商家(旧石橋家)住宅を見学しました。



「伊丹酒造・米洗ひの図」などの展示がありました。その後、1574(天正2)年、荒木村重が伊丹氏の築いた「伊丹城」を大改築した「有岡城」などのフィールドワークをしました。

24回 231教室 7/19

## ①『夷酋列像』をみる

河田かつのぶ(文学歴史学科3年)

松前藩の圧政に抗した「クナシリ・メナシの戦い」が1789年にありました。その時、松前藩に協力したアイヌのリーダー12名を描いた『夷酋列像』の画像を見ながら蝦夷地のイメージについてと、アイヌを見下し政治的に利用するための作品であるとの報告でした。

## ② パズルと数独のヒミツ

橋本秀明さん(研究生)

多くのパズルの紹介の後、3×3のマスと縦横各9マスに、1~9の数字を入れる「数独」に挑戦しました。ヒントをもらい、そのテクニックを使っただけの参加型でした。

『けやき便り』22号が配られ、橋本さんの

「パズル漬けの生活」の話の話を聞きましたが、頭を鍛え時間を有効に使うというものでした。



25回 231教室 10/18

## ①北海道—アイヌを訪ねる旅

小笠原昭博さん(文学歴史学科3年)

松山利夫先生の講座の受講生を中心に「北海道-アイヌを訪ねての旅」の報告でした。講座で学んだ「知里幸恵銀のしづく記念館」や「萱野茂二風谷アイヌ資料館」で話を聞き、アイヌ民族、歴史、民具、踊りなど、ひと・こと・モノに出会う旅を満喫できたとのことでした。写真は、アイヌの民族楽器・ムックリを演奏する報告者。



## ②「占い」の話

田中利二さん(情報学科3年)

配布資料のタイトルは「会話がはずむ! 仲間が笑う 簡単手相の見方」で、「煌占塾・田中太崇」での報告。手相についていくつかのツボを聞きながら、自分や隣り合った人の手相を観る楽しい参加型でした。写真は、スライドを映しながら解説する報告者(左端)。





北海道アイヌ民族フィールドワークにて

『アイヌ神謡集』に出会う

研究生 井上 聖明

Kamuichikap kamui yaieyukar,  
“Shirokanipe ranran pishkan”

“Shirokanipe ranran pishkan, konkanipe ranran pishkan.” arian reko chiki kane petesoro sapash aine, ainukotan enkashike chikush kor shichorpokun inkarash ko

鼻の神の自ら歌った謡  
「銀の滴降る降るまわりに」

「銀の滴降る降るまわりに、金の滴降る降るまわりに。」という歌を私は歌いながら流に沿って下り、人間の村の上を通りながら下を眺めると

(知里幸恵の神謡集：左にアイヌの歌をローマ字で、右にその意味を述べる)

私はこの9月に「日本の風土と文化」受講生が企画された「北海道・アイヌを訪ねて」フィールドワークに参加させていただき、いくつかの民族資料館や文化施設を見学してきました。その一つ「銀のしずく記念館」で知里幸恵と彼女が編集した「アイヌ神謡集」を目の当たりにしてとても興味を覚えたので、帰阪してすぐ買い求め目を通したところ《その昔この広い北海道は、私たちの祖先の自由の天地でありました。天真爛漫な稚児の様に、美しい大自然に抱擁されてのんびりと楽しく生活していた彼等は、真に自然の寵児、なんと幸福なひとたちであったでしょう》で始まる「序文」を読み終えたところで涙が止まらなくなったのです。彼女の「アイヌ民族」に対する切々たる想いを込めた文章に胸が詰まります。100年前の大正11年3月1日この序文を書き終え、9月14日付けで、もうすぐ印刷に入れると両親に手紙を送り、最終校正をなし終えた9月18日心臓発作で急逝、享年19歳の若さでした。



彼女が命をかけて書き上げた「アイヌ神謡集」が刊行されたのは、翌年の1923年8月10日のことです。

神謡（神様が謡う）：アイヌ社会では神様は動物や草木などに姿を変えて人間世界に居るとされているので、狐や鼻とか兎などが歌うと表されているのは神様が謡っていることなのです。  
(神謡集目次：抜粋)

鼻の神の自ら歌った謡  
「銀の滴降る降るまわりに」.....

狐が自ら歌った謡「トワトワト」.....

狐が自ら歌った謡「ハイクンテレケ ハイコシテムトリ」.....

兎が自ら歌った謡「サンバヤ テレケ」.....

谷地の魔神が自ら歌った謡「ハリツ クンナ」.....

小狼の神が自ら歌った謡「ホテナオ」.....

この「神謡集」の発刊にはアイヌ語研究に取り組んでいた「金田一京助」が強くかかわっています。幸恵が15歳のとき、アイヌ口承文芸の伝承者である祖母を訪ねてきた金田一京助と出会い、幸恵はアイヌの伝承を後世に残すことを決意してローマ字を学び、ノートに書き写して上京、金田一の家で本にまとめたのです。

口承で伝わってきた神様の歌をローマ字に置き換えたことで、文字だけではなく音として伝わる効果もあると考えます。当時のアイヌ民族文化はことごとく抹消されていく中であって、この神謡集や知里幸恵の残したノートは世界的にも非常に貴重なものとされています。

(知里幸恵の写真; 銀のしずく記念館パンフより転載)

&lt;ざっきちょうから&gt;

## ひとり申し込みツアーの旅

研究生 金森 扶美子

昔海外の一人申し込み旅行はしたことがあるが、国内の一人申し込みツアーの初めての旅。土佐高知の四万十川、足摺岬を新幹線、特急電車、バスで移動する旅だ。

新大阪で集合待ちの間に若そうに見えた女性と話す自分と同年齢と言う。「うそっ、若く見える！」なんてお世辞じゃなく思った。もう一人の方とも気が合い3人でつるむ。

岡山、高松、高知と特急とはいえ凄く揺れる列車にのどかな山林、田園風景を楽しむ。高知からはバスで、仁淀川、中津溪谷へと向かう。天候も良く久方ぶりの溪谷歩き。足元が覚束ない彼女と一緒に歩いてねと言われていたが、思わぬ健脚ぶりの私はいつの間にか彼女と離れてしまっていた。「あれッ、彼女がいない」と気づくと、「女性がひとり川に落ちてたよ」と言われ、ひょっとして彼女？と——やはり彼女だった。全身水浸しになったそうで、着替えてはいたが、靴は“雪駄”になっていた。一緒に歩かなかった私はちょっぴり、自責の念。

ホテルに入り、一人部屋はセミダブルベッドが2台入って意外と清潔そうで快適。

ここまで来て、道中ひとりの女性になんとか苦手意識を持つ。気さくさがなく、やたらお澄まし。お喋りな私たちとは人種が違うわなんて態度だ。夕食のテーブルも一緒にと手招きしたのに無視された。シャイな人なのかと思ったけど、他での同席の男性には「ではまた明日」なんて声がけしていた。まっ、いいけど……。

翌日はバスで沈下橋、足摺岬へ。四国・西の最南端の足摺岬。日本海育ちの私には太平洋は先が見えなく果てしない感じがして怖いのだが、視界が広くて気持ちがいい。ジョン万次郎の生誕の地だそう。灯台の周りの散策道にはウグ

イスが競うように鳴いている。

帰りの高知では駅前にかの有名な坂本龍馬、中岡慎太郎、武市半平太の銅像。遠目にはなかなか立派な銅像である……が、台風や大雨には仕舞われるそう。なぜ？ 実は発泡スチロールでできてるそう。ハハハ、成程、面白い。

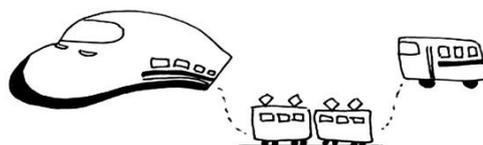
高知からの特急の席は添乗員さんが決める。な、なんと！例のお澄ましさんの隣の席だ。一瞬、えっ！と絶句。まいったなあ、でも仕方がない。窓側の席に着く。彼女は澄ました感じで早くも文庫本をお読みだ。ちょっと間をおいて黙っているのも変だし「家はどこですか？」と、声がけ。「神戸です」と言ったまま本を読んで取り付く島もない。これ以上私から声がけする必要もなかろうと思うが、なんとなく気分が悪い。岡山までの2時間半、ま、外の景色を見て過ごそうと覚悟を決める。

時たまチラと彼女を見るが変わらず本読み。少したってまた彼女を見ると、本を読んではいるがなんとなく違う。何か感じているのかな？ そうこうしているうちに、すぐ岡山に着く頃ふいに「どこに住んでるんですか？」ときた。この段になって聞くか？「豊中です」フッフ、やはり彼女もこの雰囲気気になってたんやなど一人ほくそ笑むがそのまま別れてしまう。

ところが新幹線が神戸に近づく頃、彼女がやってきて「さよならのご挨拶に」と言ってくれる。おやおや、まあ、いいっか！おかげで心のわだかまりも消えてすっきりする。

初めに若く見え川に落ちた彼女、マスクをしてたせいで若く見えたのだ。マスクを取ったら年相応のおばさんやった。マスクをして少し若者の恰好をしたら若く見えるのかしら？

20名のうち一人参加は8名。景色にまして私には一期一会の知らない人と交流する人間ウォッチングの楽しい旅でありました。



けやき遊歩クラブ

## 69 回の例会を振り返って

研究生 中村 米三郎

2014年4月に設立した「遊歩クラブ」は、2022年4月に69回の例会を行いました。69回の例会も資料を見ると、1回1回が昨日行ったように新鮮で蘇ってきます。その中で、私なりに特に心に残った例会を取り上げてみます。

62回例会「学園バスで福井へ（一乗谷）」  
 戦国大名朝倉氏は、織田信長と戦い「一乗谷城」は焼き払われますが、その後の福井の人達は「一乗谷城」を見捨てて平地の方に移って行かれました。福井市は、昭和43年可能な限り「一乗谷城」を復原されて「特別史跡」になり、日本のポンペイといわれています。

例会で現地に立てば、戦国時代にタイムスリップしたような感じになりました。(H31.9.28)

50回例会「ツバメのねぐら入り」

ツバメの「ねぐら」とは、ツバメが夜に集まって眠る場所のことで、平城宮跡にある「ねぐら」は、19時過ぎから30分ほどで5.5万羽程のツバメが集まってきて「ねぐら」に入ります。自然界の営みは脅威的でした。(H30.8.10)

遊歩クラブの例会の行き先として、通常の名所旧跡、寺社仏閣とは違った趣がある場所も、また、選ぶ必要があると思いました。

会員の皆さんが、例会で行きたい所があればどのような所でも有難いのでお教えてください。

11月から例会を再開いたします。

70回例会 23年11月「臨時総会 阪神ホテル」

71回例会 24年1月「初詣 八坂神社」

72回例会 24年4月「花見 京都府立植物園」

また、皆さんと一緒に、「楽しんで、学んで、歩いて、仲間づくり」を行いたいと思います。

けやき IT を楽しむ会

## 「ZOOM」で勉強会を開始

研究生 中村 米三郎

コロナ等の関係で長い間、勉強会を行っていませんが、11月から「ICT概論」のテキストを用いて「ZOOM」で勉強を行います。テキストの内容は次の通りです。なお、内容は資料の準備等により変更する場合があります。

テーマ
1. 電子計算機の誕生
2. オンラインシステムスタート
3. パソコンの登場
4. インターネットの普及
5. スマートフォン
6. スーパーコンピュータの活用
7. 量子コンピュータの登場
8. オープンソースソフトウェア
9. 文字コードについて
10. ビット、2進数、16進数等
11. ホームページの仕組み
12. 中央処理装置CPUについて
13. パソコンの性能について
14. パソコンの演算処理について
15. パソコンの命令の実行について
16. 基本ソフト(OS)について
17. プログラム言語について
18. システムの復元について
19. One Driveについて
20. プログラムのデバッグについて
21. 便利な入力方法について
22. OSの「割込み」について
23. ショートカットキーについて
24. プリントスクリーンについて
25. オンライン画像について
26. ショートカットの活用
27. チェックデジットについて
28. ワードでお絵描き
29. パソコンで扱う色について
30. ITにおける数の単位

けやきテニスクラブ

## テニスクラブの活動

国際文化学科3年 鈴木 好夫

### ★ クラブ活動 (写真は6月、10月)

シニア専修コースの受講時期に合わせ、毎週木曜日の12時30分から2時間を活動日としています。テニスの後は食堂、時には近くのレストランで反省会を行ったりしています。



### ★ 校外テニス会 (写真は3月、9月)

コロナの時期に有志で始めたテニス会でしたが、現在はシニア専修コースの休講時期に猪名川公園のテニスコートで行っています。参加は自由で、友人家族などと花見もしています。



### ★ けやき祭に参加

(写真は10月14・15日)

昨年から大学テニス部のお手伝いとして参加を始めました。テニス部のイベントの受付、集客、案内などですが、合間にはお客となって学生さんとのラリーやゲームに参加もします。



### ★ その他の活動

毎年、春と夏に行われる大学テニス部の出場する関西のテニス大会に観戦応援に行きます。園田スポーツフェスティバルのテニス部門に参加し、学生さんとのテニスを楽しみます。

けやき軽音楽クラブ

## 今年を振り返り

研究生 木村 勲

今年は新型コロナが5月8日第5類に移行して以来、通常活動に戻り、毎月訪問している介護福祉施設や、新入生歓迎ライブ、宝塚宵まちコンサート、サマーライブ、けやき祭、宝塚公民館祭り、練習成果発表会(クリスマスライブ)と毎月かなり忙しくコンサート活動をこなしてきました。

その中でも JR 吹田駅近くにある本格的ライブハウス「TAKE FIVE」の貸し切りライブは思い出に残る1ページとなりました。

けやき祭では学部生軽音楽部の学生さんとコラボ演奏しました。園田学園しかできない園田学園らしいコンサートとして今後の「けやき祭」の定番メニューになればと考えています。

現在の練習場所は、毎週火曜日午後1時~4時までリズム教室で行っています。練習風景を見学に来られる方もおられ、メンバーの励みにもなっています。

また、軽音サポーターの方々には、練習時や本番ライブで録音や撮影などの協力をさせていただき今後のスキルアップの一助となっています。

ライブでの受付などの運営にもご協力いただき、いろいろな方々のサポートによって成り立っていることをメンバー一同感謝の気持ちでいっぱいです。皆さんに愛されるクラブを目標に来年度も精進していくつもりです。

新年度企画は、本年同様の活動を目指していますが、より以上のレベルアップと新味のある内容に刷新できればと考えております。

まだまだビギナー演奏を脱しませんが、シニア世代でも刺激を発信できることを忘れず、年は取るがいつまでも青春の気持ちを持ち続け、これからも頑張っていく所存です。

今後ともよろしくお願い致します。

けやき朗読倶楽部

## けやき祭に参加して

研究生 金森 扶美子

★ 8月9月と長い夏期休暇が終わってすぐに10月15日の「けやき祭」になります。毎年出演しているのが9月中旬にランチ会をして、学園祭に出演するか否か？を皆さんに尋ねたところ、“やろうや”という声が多数。

それでは演目は？これが一番の悩み。でも部長のかたの素早いアイデアに助かりました。桂三枝・作 絵本『美しき青き道頓堀川』と浪曲・天津羽衣の『瞼の母』に決まり、学園祭までの少ない練習日に早速取り掛かりました。

この2作品とも朗読劇構成にはなっていないので、まずは台本作り。そしてキャスティング。演劇でもそうですが、これが一番難しいところ。スターがいるわけでもない（自称朗読部のスターはいますが）、できるだけセリフ量も公平にと頭のひねりどころ。

セリフの受け答えさえ上手くやれば……おっと、忘れてた、音響もいるではありませんか。舞台場所もなかなか決まらず、上手下手もわからない。衣装はどうする？ カメ(亀)はお面でな

とかやれるけど、「瞼の母」は時代劇だから着物？それも渡世人、ないない！

朗読倶楽部だけでは集客も難しく、いつも軽音楽クラブにバスターさせてもらうだけでは、いけないと、チラ

シ作成・配布にも今年は頑張った——とバタバタしたが、倶楽部のモットー“楽しく”やれたんじゃないかな？と思います。

★ 今年度は事情があつて5名の方が休学もどきになられて、少々クラブ員が少なくなっています。でも新入生がおひとり入部してくださいました。求む！新入部員。よろしく！



けやきゴルフ同好会

## 女性会員募集！！

研究生 福島 敏子

私は、介護訪問、障害者施設、デイサービス、居宅介護用品、グループホームなどの経営の傍ら園田学園に通学し、忙しい毎日を送っています。

園田学園にはもう一度勉強がしたくて入学いたしました。1年生の歓迎会の時、まだゴルフを始めたばかりの私に先輩からゴルフコースをお誘いいただき嬉しかったです。

それから、ゴルフ同好会を立ち上げることになり、会長は、研究生の川田郁夫さん、幹事は研究生の福島久雄さんで、私は副会長の役職を仰せつかることになりました。毎月、毎回色々なゴルフコースをエントリーしてくださり、喜んで参加しております。

会員は男性が主体で、残念ですが女性は私だけです。会員の皆さんはやさしくて、下手な上に緑内障で眼の視野が欠けてきている私に、ボールをよく見てくださり、とても感謝しております。いつ頃、目が見えなくなるか分かりませんが、それまでは甘えようと思っています。

ゴルフ同好会では会員を募集しております。特に女性の方の入会を切望しております。

優しい会員の皆様とご一緒にゴルフしませんか！



2023年9月度例会 小野グランドカントリー倶楽部にて

けやきカラオケクラブ

カラオケクラブ 遂に3000曲!

研究生 木下 俊造

今年度も10月までに6回の例会を実施でき、延べ83名の皆様に参加いただきました。

4月から新入部員の参加もあり、2014年以來の歌唱回数が3011、曲目数は1209を数え、アフターミーティングも含め、賑やかな例会となっています。

前期は4月5月の新入生歓迎例会に続き、6月7月はリクエスト特集を実施し、皆様方からいただいたリクエスト33曲の完唱はなりませんが、26曲までは到達できました。

おしゃべり自由・出欠自由・会費不要の「ゆる〜い雰囲気」の中、後期は紅白歌合戦、3000曲記念例会も予定していますので、見学・体験・お直しをご希望の方は、いつでも少しの時間でも「ゆる〜いクラブ」を覗いてみてください。

最後に例会イメージとともに、通算歌唱回数14以上の曲を紹介いたします。



例会イメージ

歌唱回数(2014~2023. 10. 25)		
歌手	曲名	回数
藤あや子	むらさき雨情	48
祭小春	博多しぐれ	44
伍代夏子	ひとり酒	33
霧島昇・松原操	三百六十五夜	30
欧陽菲菲	雨の御堂筋	27
テレサ・テン	つぐない	26
美空ひばり	みだれ髪	23
淡谷のり子	雨のブルース	18
海原千里・万里	大阪ラブソディー	18
石川さゆり	津軽海峡・冬景色	16
イルカ	なごり雪	16
原田悠里	木曾路の女	14

「けやき便り」編集クラブ

みなさんの入部をお待ちしています!

研究生 桜井 秀也

私たち編集クラブは、シニア専修コースの皆さまから自由投稿を募集し、いただいた原稿を「けやき便り」用に編集・校正し、印刷・製本して(また電子版でも)皆さんにお届けしています。

編集クラブ独自の企画で、インタビューや座談会など、取材を行うこともあります。

原稿を執筆された方の気持ちを大切に、できるだけオリジナルの文章のままで、かつ読者の皆さまにわかりやすく、好感を抱いていただけるよう、タイトルや写真・イラストのデザインも工夫しているつもりですが、いかがでしょうか。

ほぼ月1回の会議とその後の“たこ焼き”会で盛り上がり、部員間の友好を深めています。



“たこ焼き”会

文章を書いたり読んだりすることが好きな方、ちょっと苦手な方、「けやき便り」に少しでも興味がおありの方、どなたでも結構です。ぜひ一度編集クラブを体験して下さい。

編集会議の開催日はセンター前の掲示ボックスでお知らせするようにいたします。



編集会議の様子

「けやき便り」第29号は、バックナンバーを含め、以下からご覧いただけます。

<https://onl.tw/H1n4YGt>

スマホでは、右のQRコードからご覧いただけます。





# 社会連携部 生涯学習センターからの お知らせ

## 1. 2024年度4月入学生募集開始

募集リーフレットが完成いたしましたので、ご友人やご家族でご関心のある方がおられましたら是非ご紹介ください。研究生の方の他学科への再入学も大歓迎です。11月20日(月)から面談予約受付を開始いたします。また、各学科1年生必修科目の授業観覧も行いますので皆様のご理解、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

## 2. 公開講座

今年度より、講座数も増えて開講いたしました。シニア専修コースの受講生のみなさまにもお申込みいただいております。本学公開講座・

**注目講座 人間を考える**

「人間を考える」は、1982(昭和57)年に特別総合講座として始まった看板公開講座です。今年は特別企画として、単独申し込みで受付いたします。1,500円/回のみで受講可能、登録料1,500円のお支払は必要ございません。(そのため、「図書館利用」等の登録特典はございません。ご了承ください。)

---

**「いのち」をみつめる**  
—自分らしく“生きる”につなげよう—  
本学人間健康学部 人間看護学科准教授 大納 雨子 **F-05-後**

12月18日 月曜日 10:40~12:10 **1回 1,500円**

皆さんは「いのち」について、自分自身、家族、友人、ペットのことを思いながら、さまざまな場面で考えたことがあるのではないのでしょうか。看護師として臨床現場で多くの「いのち」と向き合ってきた経験や、看護学生たちと考える「いのち」などを話題にしながら、「いのち」をみつめたいと思います。そして注目されている「人生会議」を知り、毎日を自分らしく“生きる”につなげることを、皆さんとともに考えてみたいと思います。

---

**21世紀の労働と人間**  
—AI時代の労働を考える—  
本学経営学部 ビジネス学科助教 浅井 希和子 **F-06-後**

12月20日 水曜日 13:00~14:30 **1回 1,500円**

少子高齢化による労働人口の減少、「働き方改革」、コロナ禍によるリモート・ワークの拡大など、人々の労働環境はここ数年で大きく変わりつつある。人が集まり、協働していた時代から、人々の間にAI(人工知能)やシステムが入り、それらを介して、あるいはそれらと共に働く時代となっている。このような時代の「労働」は人にとってどのような意味を持ち、どのような影響を与えるのだろうか。本講座では、技術革新による仕事の自動化、機械化の進展と、人々の働き方の変化について講義する。

看板講座である「人間を考える」につきまして、お申込み受付中です。ホームページをご覧ください。

## 3. 学園祭「けやき祭」が開催されました!

10月14日(土)15日(日)の2日間、けやき祭が開催されました。

けやき朗読倶楽部・けやき軽音楽クラブのステージも盛り上がり、けやきテニスクラブも学生テニス部のサポートをいただきました。あり

がとうございました。

また、あるご縁から受講生の方が、学生茶華道部のお茶席をお手伝いいただき、新たな交流も生まれました。

(写真:受講生より寄贈頂いた茶器の一部 学生たちも大喜び大切に使用させていただきます。)



## 4. 今後の予定 (2024年)

1月15日(月) ~ 2月29日(木)迄に	研究生新規登録・ 継続手続き
3月1日(金)	2023年度 卒業式
4月11日(木)	2024年度 入学式
4月11日(木) ~ 4月26日(金)	ハンドブック・ 時間割配布/履修登録
4月15日(月)	2024年度 授業開始

※4月以降について、変更の可能性あり

## 5. 2023年度シニア専修コース Web アンケート 回答ご協力をお願い

次年度に向けてシニア専修コースのより良い方向性を探るため、皆様のご協力をお願い致します。

・対象者: 2023年度シニア専修コース在学者

・回答方法: 右のQRコードかアドレスより回答ください。

・締切日: 12月10日(日)



## 5. その他

○学内では、必ず首から受講票(名札)を身に着けてください。

○センター前の掲示板は各自必ず確認ください。

○各学科・学年用、クラブ・同好会用の連絡メールボックスをセンターに設置しています。

個々の学科・学年内での連絡用だけでなく、学科学年を横断した交流に是非ご利用ください。

HP: <https://forms.gle/Txux8VegqPWdMzjn9>

## ▶ 編集後記 ◀

▶ 今号も皆さまより様々なテーマで投稿いただきました。印象に残ったのは、松本清張の『砂の器』を読んで木次線に乗り、舞台となった亀嵩を訪ねたという文章です。私は木次線には乗ったことはありませんが、数十年前の列車旅を思い出し、とても懐かしい気持ちになりました。

次々と新幹線が開業して便利になるのは喜ぶべきことなのでしょうが、その代わりに廃線区間や第3セクターが増えるのは元「乗り鉄もどき」としては寂しい限りです。 研究生 高山 純子

▶ 久しぶりにけやき便りに投稿させて頂きました。A4サイズ1枚にまとめるのに一苦労でした。簡潔で明確な表現、冗長な表現や複雑な言い回しを避けて、できるだけシンプルにと思い、何度も読み返してようやく完成。今回も多くの方に、気軽に執筆依頼をしましたが、みなさん快く引き受けて下さり、心より感謝致します。これからも個性豊かでユーモアあふれる記事を宜しくお願い致します。

研究生 酒井 恵理子

▶ 29号にご応募下さった多種多様の原稿に学ばせていただきました。部員として日本語の一層研鑽をしなければならないことを痛感しました。

研究生 峠田 桂子

▶ 多彩な投稿の中、お二人の先生方から格別なご縁と懐かしさをいただき、今号での出会いに感謝しています。

研究生 木下 俊造

▶ 今号も皆さまから、たくさんのお気持ちがこめられた原稿をお寄せいただきました。

浅田先生の、思わずニヤリとしてしまう(失礼)ユーモアたっぷりで味わい深い文章を読ませていただきながら、ふと自分の足元を見つめ直しました。

松原さんの「漢詩を学ぶ」を通して(私は半分も意味を理解していません)漢詩の持つ格調高い格好良さ、清々しさを味わわせていただきました。人は、時代や場所や境遇は違えどもみな同じなのだ、

故郷や妻子との別離の寂しさ・悲しさ、老いてさらに学ぼうという気持ち、それらは漢詩の時代も今も同じ、それが共感を呼ぶといった松原さんの思いが伝わってまいりました(勝手な解釈ですみません)。3回にわたる漢詩の世界を、ありがとうございました。 研究生 桜井秀也

### 皆さまからの投稿をお待ちしています!

#### 1. 原稿について

原稿の長さは、1ページ(約1500字以内)、長くとも2ページとし、写真・イラストを挿入する場合は、そのためのスペースを本文から減らしてお書き下さい。「私の作品」につきましては、1ページ以内でお願いいたします。

① 手書きや印刷物で頂く場合

様式は問いません。お近くの編集クラブ員にお渡しください。

② テキストメッセージでいただける方は、下記アドレス宛にファイルをお送りください。

[hideyasakurai94@gmail.com](mailto:hideyasakurai94@gmail.com) 桜井秀也

③ 写真掲載について

「けやき便り」はウェブ上にも掲載されます。写真付きで投稿される方は、肖像権などの問題が生じないように事前に撮られる方の了解を得ていただくようお願いいたします。

#### 2. 次の内容を含む投稿はお断りします。

① 宗教・政治に関するもの

② 公序良俗に反するもの

③ 一般常識の範囲を逸脱していて、「けやき便り」編集クラブが、掲載することを不可と判断したもの

#### 3. 原稿は、一部変更・修正をすることがありますのでご了承ください。

① 紙面のレイアウトを整えるため

② 編集クラブで気がついたあきらかな誤記やわかりにくい記述、不適切な表現を避けるため

#### 4. 投稿される方はお名前を書いていただきますようお願いいたします。